



FAVAアジア狂犬病根絶特別委員会（FRASC）発足式

2025年3月23日

「毎年6万人以上が死亡する狂犬病」国際協力強化でワンヘルスの実現を目指す
～アジア狂犬病根絶特別委員会発足 アジア12カ国が参加～



FAVA ホ・ジュヒョン 会長

韓国・ソウル東大門区でFAVAアジア狂犬病根絶特別委員会（FRASC）の発足式が行われました。

FRASCの委員長にはチョン・インソン大韓獣医師会教育委員長、副委員長にはフィリピンのハリス・コンスタンティノFAVA次期会長とムン・ドゥファン大韓獣医師会副会長が選任されました。また、アジア各国の獣医師会の推薦を受け、計16人が委員として活動します。

FRASCのチョン・インソン委員長は、「アジア各国で狂犬病問題に対する国民の関心を高め、政府、学界、動物病院業界が協力しなければならない」と呼びかけ、「今回の発足式が人、動物、環境がともに健康なワンヘルスを実現する礎になることを願っています。」と挨拶しました。

FAVAのホ・ジュヒョン会長は、「FAVAは特別委員会を中心に加盟国とともに狂犬病の根絶をリードしていく」と述べました。

また、FAVAワンヘルス福岡オフィスの藏内勇夫所長も発足式に出席し、先般行われた日中韓三国首脳会談での共同宣言に触れるとともに、「FAVA加盟国と協力し、日本の経験や知見を共有することで、狂犬病のないアジアという目標に貢献したい」と挨拶しました。



FOF 藏内勇夫 所長



今回の発足式は、世界獣医師会ジョンソン・チャン元会長や各国の獣医師、韓国の政府及び産業と動物団体の関係者が出席し、狂犬病やその他の人獣共通感染症対策に対する協力の意思を固めました。

左から
フィリピン獣医師会 ジェリー・V・アルカンタラ 会長
FAVA ホ・ジュヒョン 会長
FOF 藏内勇夫 所長
世界獣医師会 ジョンソン・チャン 元会長

FRASCは昨年10月の第46回アジア獣医師会連合 (FAVA) 代表者会議で、アジア諸国の狂犬病の根絶を通じた、人と動物の健康及び福祉の増進を目的として設置が議決されました。その後、第23回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会の閉会式にて、ホ・ジュヒョン FAVA 会長が「FAVA 狂犬病根絶宣言」を行いました。



アジアにおける狂犬病の現状と課題

世界保健機関(WHO)の2023年の報告によると、毎年約59,000人が狂犬病で死亡しており、その95%以上がアフリカとアジアに集中しています。

アジア各国における狂犬病の状況には大きな差があります。日本や韓国では、長い間、人と動物の間で狂犬病の発生が確認されていません。

また、台湾でも、野生動物であるイタチでの感染例はありますが、人や犬での発生は報告されていません。一方、フィリピン以南の東南アジアやインド周辺では、依然として狂犬病の問題が深刻であり、対策が求められています。

狂犬病はワクチン接種や適切な予防策によって完全に防ぐことができる病気です。

ワンヘルスの考えのもと、動物と人の診断情報を共有し、より効率的な予防対策を進めることが求められています。